

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 学校法人カンティーニョ学園

1 事業の趣旨・目的 (具体的に)

これまでの定住外国人(日系人)の動向をふまえると、景気回復後は多くのリピーターの再入国が見込まれ、また帰国の意思がない実質的定住者の数は、景気悪化以前とさほど変わっていないと感じる。

そして、日本での雇用状況においては、多くの企業が外国人ワーカーを雇用する際の採用基準として、日本語能力を重視する傾向が景気悪化以前よりも強くなったことから、これら定住外国人に、より多くの職業選択の機会を与え、それによって地域社会の良きパートナーとして穏やかな暮らしができるよう、生活言語としての日本語指導を目的とする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月25日	マルアイグループ本社	亀井宏光 加藤敦久 中野葉子	自動車関連企業の輪番 操業に対応するためのス ケジュールの変更につい て	7月～9月の3ヶ月間、節電のため自動車関連企業で土曜日・日曜日が操業されることになった(木曜日・金曜日が休み)。そして、受講者全員が自動車関連企業に従事しており、土曜日に実施していた日本語教室を変更せざるおえなくなった。しかしながら、平日カンティーニョ学園では通常の学校運営を行っているため空いている教室がなく、学園内での平日の日本語教室実施は不可能と思われた。教室にはブラジル国籍の受講生が8名と、中国国籍の受講生15名が在籍しており、実習生として自動車関連企業で就業している中国人受講生らは、日曜日が休日であったため、受講生の大半を占める彼らを優先し、日本語教室の実施を日曜日に移行する運びとなった。
8月7日	マルアイグループ本社	亀井宏光 加藤敦久 中野葉子	日本語教育のニーズについて	7月からは曜日が土曜日から日曜日に変更になったため、在籍している受講者は中国人実習生のみとなった。勤務先からの要望もあつての参加のため、出席率もとてもよく、真面目に取り組んでいる。同じように外国人従業員

				員を雇用する企業は多く、独自で日本語教室を実施しているところも少なくない。このような企業に、もっと我々が実施している日本語教育事業をアピールすれば需要もたかまるのではないかな。
--	--	--	--	--

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 『とよはし みんなの日本語教室』
- ② 開催場所 学校法人カンティニーニョ学園 愛知県豊橋市東岩田3-1-3
- ③ 学習目標 基本的な日本語の文法を身につけ、日常生活や職場で活用できるようになる。
- ④ 使用した教材・リソース 『中級へいこう』 スリーエーネットワーク 自作プリント(添付資料有)
- ⑤ 受講者の募集方法:外国人従業員を多く雇用する企業へ協力を依頼。広告を作成したが、前回の実績もあり口コミで定員をクリアした。
- ⑥ 受講者の総数 23 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 中国・15人 ブラジル・8人)
- ⑦ 開催時間数(回数) 60 時間 (全 15 回)

日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
1	5月28日 8:00~12:00	4時間	22人	中国・中国語(15人) ブラジル・ポ語(8人)	教授者1人 補助者1人	初回プレースメントテスト (レベル確認)/解説
2	6月4日 8:00~12:00	4時間	21人	中国・中国語(15人) ブラジル・ポ語(7人)	教授者1人 補助者1人	受身について (導入・練習・会話練習)
3	6月11日 8:00~12:00	4時間	21人	中国・中国語(15人) ブラジル・ポ語(6人)	教授者1人 補助者1人	使役について (導入・練習・会話練習)
4	6月18日 8:00~12:00	4時間	21人	中国・中国語(14人) ブラジル・ポ語(3人)	教授者1人 補助者1人	自動詞と他動詞 (～しています・～てあります)

						す)
5	6月25日 8:00～12:00	4時間	3人	中国・中国語(0人) ブラジル・ポ語(3人)	教授者1人 補助者1人	『中級へ行こう』 第1課「ファストフード」
6	7月3日 8:00～12:00	4時間	15人	中国・中国語(15人)	教授者1人 補助者1人	『中級へ行こう』 第2課「地震」
7	7月10日 8:00～12:00	4時間	15人	中国・中国語(15人)	教授者1人 補助者1人	『中級へ行こう』 第3課「最近の子ども」
8	7月17日 8:00～12:00	4時間	14人	中国・中国語(14人)	教授者1人 補助者1人	『中級へ行こう』 第4課「インターネットの利用」
9	7月24日 8:00～12:00	4時間	15人	中国・中国語(15人)	教授者1人 補助者1人	『中級へ行こう』 第5課「睡眠」
10	7月31日 8:00～12:00	4時間	15人	中国・中国語(15人)	教授者1人 補助者1人	『中級へ行こう』 第6課「日本人の発明」
11	8月7日 8:00～12:00	4時間	13人	中国・中国語(13人)	教授者1人 補助者1人	『中級へ行こう』 第7課「リサイクルとフリーマケット」
12	8月21日 8:00～12:00	4時間	14人	中国・中国語(14人)	教授者1人 補助者1人	『中級へ行こう』 第8課「あいづち」
13	8月28日 8:00～12:00	4時間	14人	中国・中国語(14人)	教授者1人 補助者1人	『中級へ行こう』 第9課「男の仕事・女の仕事」
14	9月4日 8:00～12:00	4時間	13人	中国・中国語(13人)	教授者1人 補助者1人	『中級へ行こう』 第10課「言葉の使い方」
15	9月11日 8:00～12:00	4時間	14人	中国・中国語(14人)	教授者1人 補助者1人	まとめ 会話総合練習

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

(特徴が最もよく表れた日の授業報告を詳細に記載。また、教室風景の写真を数枚添付。)

(第一回:5月28日)

■受講生のレベルを判別するために、プレースメントテストを行いました。

テストの結果、ほとんどの受講生がひらがな・カタカナ、およびごく基本的な文法を習得済みだということがわかりました。

テストの後、問題の解説を行いました。解説をしながら、同じ文型を使って作文・発話させる応用練習をしました。

■日常生活に必要な日付・曜日の言い方を練習しました。(ボールを使ったゲーム方式)

これはほとんど毎週行いました。

(第二回:6月4日)

■日常生活でよく使う文法事項として「受身」を取り上げ指導しました。

基本的には理解していますので『みんなの日本語初級』を使って再確認の後、練習問題を行いました。

解答を確認しながら、言葉を入れ替えて受身文を作り発話させる練習をしました。

(特に、動作主の無い受身文、自動詞の受身文「めいわくの受身」について重点的に指導しました)

■他の回には、受身のほかに「自動詞と他動詞」「使役」など利用頻度の高い項目について指導しました。

(第五回:6月25日)

■文法テキスト『中級へ行こう』を利用して、文法指導を行いました。

受講生はほとんどが基本的な文法学習が終わっていましたので、発展的な内容である本書を使いました。語彙・短作文・ディクテーションなども含まれていましたので、総合的な学習が出来ました。

全部で10課ありますので、10回分は本書を利用して指導しました。



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日) 数	参加回数	当該教室での役割

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語 教育に関する資格	参加回数	当該教室での 役割
中島 史人		日本語教育能力検定 試験合格	15回	日本語講師

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

生活言語としての日本語を指導するという目標をかかげ授業を実施し、ひらがな・カタカナはもちろん、基本的な文法、生活するうえで役に立つ言い回しなど、実用的な日本語を指導した。

② 学習者の習得状況

受講者は、地元企業で働く中国人実習生と日系ブラジル人だった。中国人実習生は本国ですでにある程度の日本語は勉強していたため読み書きはすでにできており、ほとんど読み書きのできない日系ブラジル人に対しては教室開校前より、ひらがな・カタカナの自宅練習用プリントを渡しておくなどした。日本語レベルの格差(特に読み書き)は教室開始当初から目立ったが、受講者全員前向きに学習に取り組んでいた。7月からは自動車関連企業の輪番操業による影響を受け、やむを得ず途中で参加できなくなった受講者もいた。残った受講者(中国人実習生)は、母語の影響や職場で耳にする会話からの影響で、単語のみでしゃべったり、ぞんざいな言い方をしていたが、基本的な文法からやり直し、さらに敬語などの指導や会話練習を行うことによって、「です・ます調」の丁寧な表現が、わりあい出来るようになった。また、質問や依頼など機能的な発話も当初より出来るようになった。ただ、短期間の講座であったため語彙はあまり増えなかったのが残念である。独学の方法も指導したので、今後自立学習に取り組んでもらえると思う。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

一般企業が休みの週末に開催していた教室だったため希望者は非常に多く、最終的には断らざるをえないほどの応募があった。また外国人を多く雇用する企業側から、ぜひ従業員を参加させてほしいとの申し入れもあったほどだった。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

外国人を多く雇用する企業グループに、生徒募集の依頼をしたが、参加希望者がとても多く、次回もまた実施してほしいとのこと。(ここで述べる「企業グループ」とは、外国人従業員を多く募集している派遣・請負会社で、職を求める外国人が多く登録されており、日本語能力不足等でいまだに仕事に就けていない外国人を多数抱えている。)

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

現在就業中の外国人でも日本語学習を希望している者は多く、仕事をしながらでも学べる環境を望んでいる。最近の外国人を雇用する企業としては、日本語能力を重視する傾向が強く、社内で独自に日本語教室を開催している企業も少なくないため、日本語教育のニーズは今後も高まっていくと感じる。

b. 今後の課題

愛知県には外国人が多く、今後もこのような教室の需要があると思われる。学習者のニーズとしては日常的な会話を培ったり、職場でのコミュニケーションに活かしたいというものが多いので、それにフォーカスした講座も面白そうである。出来るだけ多くの方々に利用してもらう為に、事前の周知をより徹底し、場所や時間などの設定にも弾力的な運用が求められると思われる。場所や時間を設定してから募集するのか、受講者の希望を踏まえて設定するのか、そういったことも検討する必要があるのかも知れない。また、学習の効果を上げるために、開講以前に受講者全体のレベルを把握しておく必要を感じた。それによって適切な教材やカリキュラムを設定することができ、より良い講座内容にすることが出来ると考えられる。また、各学習者の自覚を促す為にも、テキストなどは自費購入してもらうのも良いのではないと思われる。辞書を持たない為に学習に支障が出る場合もあり、そのあたりは対策が必要と思われる。

c. 今後の活動予定、展望

リーマンショック以降減少の傾向にあった在日外国人であったが、今年の震災後の自動車産業における人手不足で、一時的ではあるが再度増加傾向にあると感じる。このような状況でも、企業の採用基準は日本語能力を重視する傾向にあり、日本語教育のニーズは拡大していくと思われる。企業ニーズへの対応と言ってしまうまでも、そもそも日本で暮らす外国人(とくに東海地域)は、働くために日本にやってくる。企業の求める人材を育成し、定住外国人により多くの職業選択の機会を与えることも多文化共生における重要な役割であると考え。今後の活動予定としては、週末、夜間の日本語教室の実施や、不就学になっている外国人の子供のための日本語教室なども検討している。